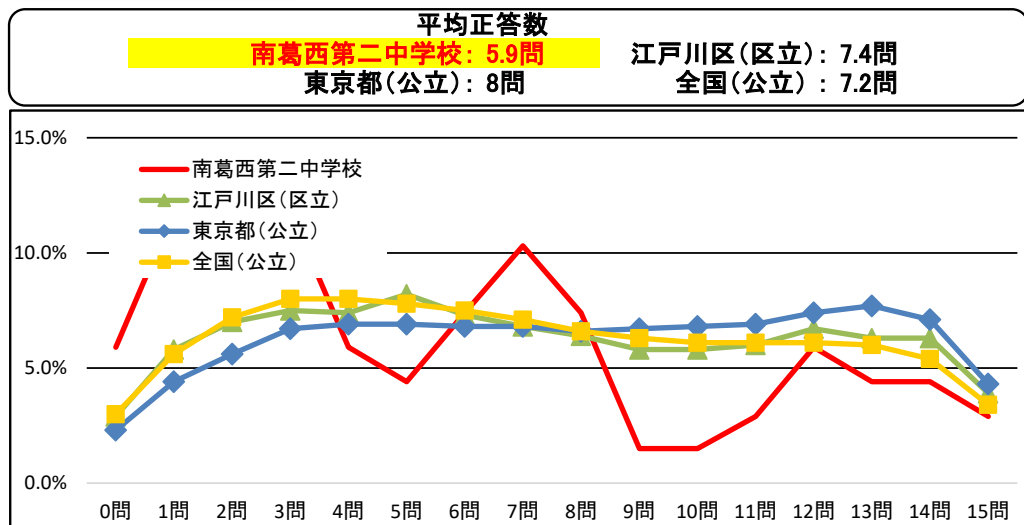


# 令和7年度全国学力・学習状況調査 結果分析表【数学】南葛西第二中学校

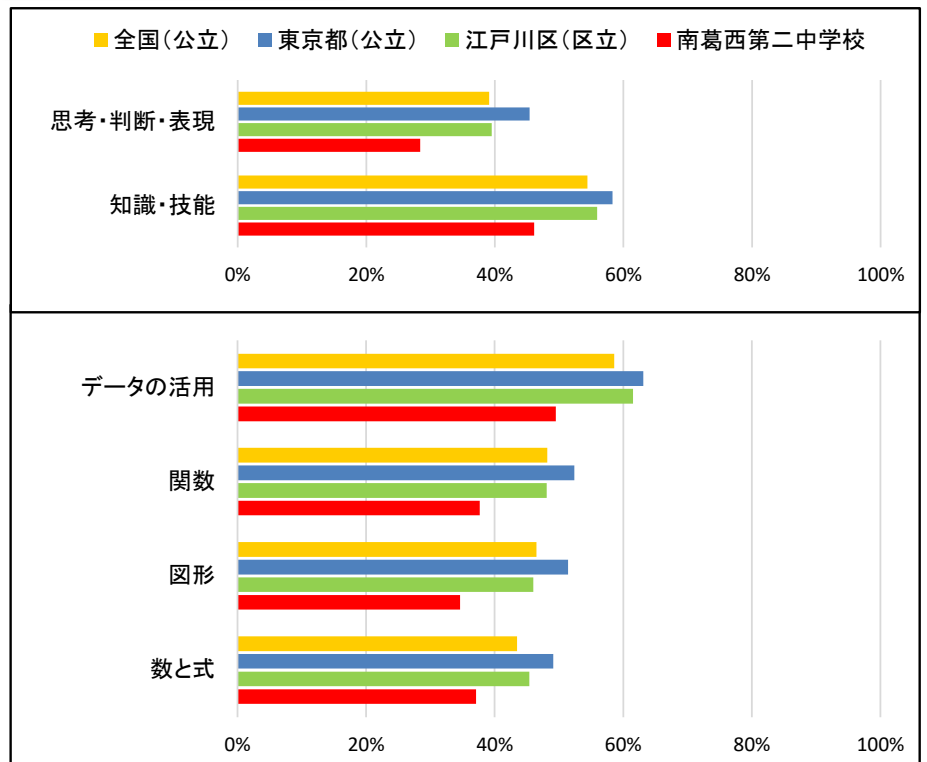
## 正 答 数 分 布



【平均正答率の差】

南葛西第二中学校	39%
江戸川区(区立)	49%
東京都(公立)	53%
全国(公立)	48.3%
都との差(ポイント)	-14.0

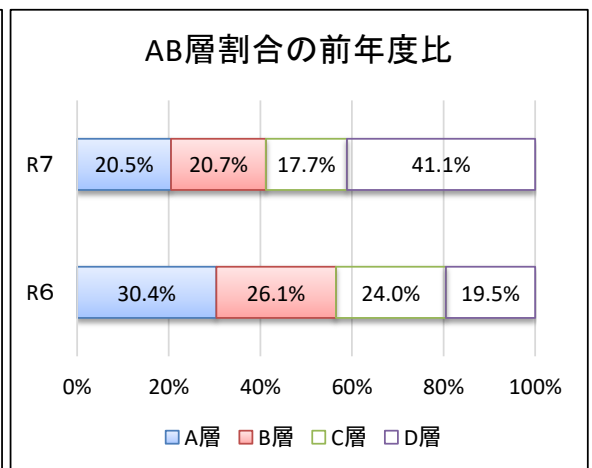
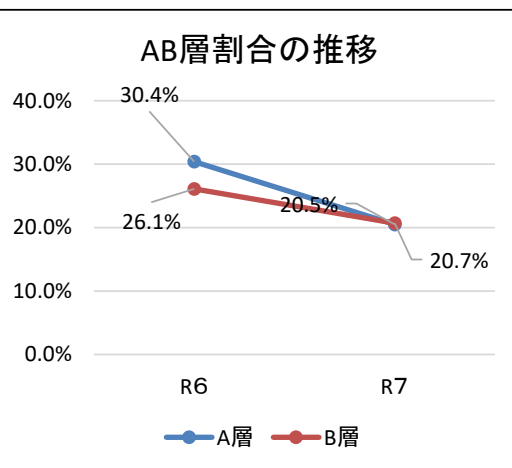
## 「領域別」の結果



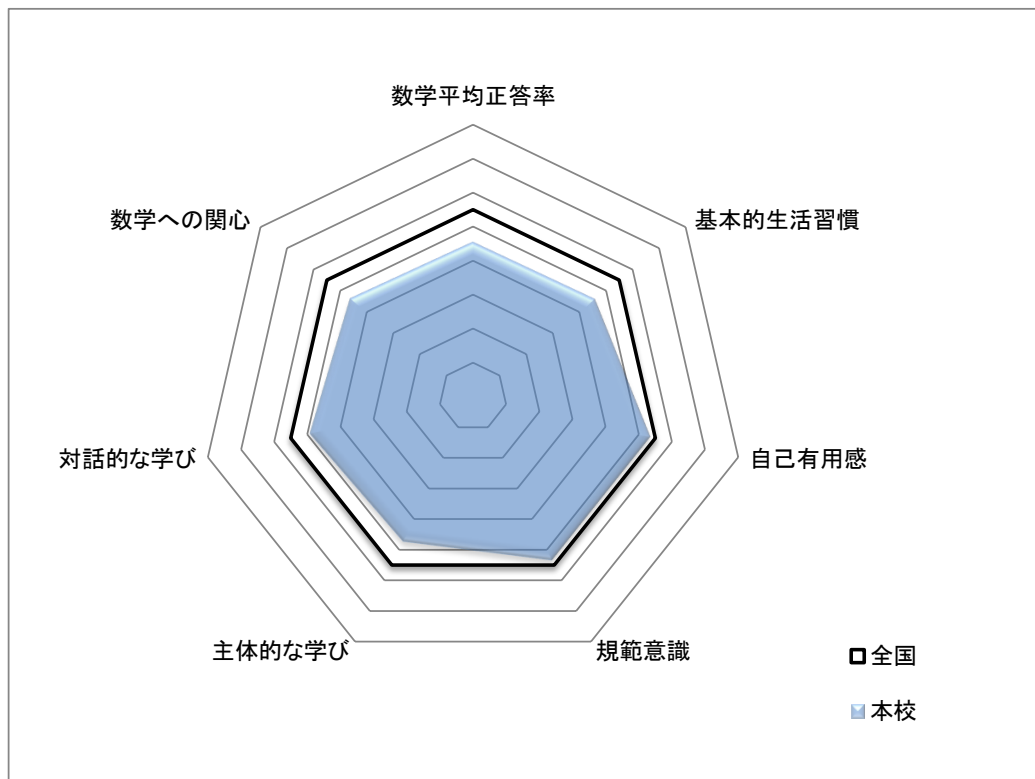
## 四 分 位 に お け る 割 合 ( 都 全 体 の 四 分 位 に よ る )

数 学	上位 ← → 下位			
	A層 12~15問	B層 8~11問	C層 4~7問	D層 0~3問
南葛西第二中学校	20.5%	20.7%	17.7%	41.1%
江戸川区(区立)	23.2%	24.0%	29.6%	23.2%
東京都(公立)	26.5%	27.0%	27.5%	19.0%
全国(公立)	20.9%	25.1%	30.2%	23.8%

四分位とは、データを値の大きさの順に並べたとき、児童数の1/4、2/4、3/4にあたるデータが含まれているのはどの集合かを示すものである。下の表では、四分位によって児童をA、B、C、D層に分けた時のそれぞれの層の児童の割合を示している。なお、本データで示している四分位は、東京都(公立)のデータを基に定めている。



## 各 領 域 に お け る 、 全 国 平 均 正 答 率 及 び 、 全 国 の 肯 定 的 回 答 合 計 値 を 基 準 と し た 場 合 の 、 本 校 の 様 子 。



《チャートの特徴》

○平均正答率をはじめ各項目において、全国平均・都平均・区平均を下回っている。  
○学力向上につながる「数学への関心」「対話的な学び」「主体的な学び」に関する意識調査の項目が平均以下であることは課題であると受け止めている。また、これらの項目が「自己有用感」「規範意識」に比べて有意に下回っていることは、今後の授業改善において学び合いの場の設定等を通じて、生徒同士の関わりの中で向上をはかっていくことが重要であると受け止めている。

《家庭・地域への働きかけ》

○基礎学力の向上のために、引き続き家庭学習(自学自習ノート等)への取組を呼び掛けていくとともに、自己肯定感を高めることにつながる課題設定・提出を検討していく。  
○生活習慣では、基礎的な習慣が身につくように生徒の実態に合わせて呼びかけを行う。

## 《現状把握》

### ●AB層の割合と取組内容について

A層B層の割合は全国平均、東京都平均、江戸川区平均を下回っている。また、D層の割合が非常に高くなっているため、授業内外で基礎的な計算力から高めて行く必要がある。  
生徒の実態に応じた課題提示を心がけた授業改善を行い、C層D層の生徒がA層B層になるように努めていく。

## 《学校の取組》

### ・教員の指導力向上

本校の生徒の様子として対話的・主体的な学びや基本的な生活習慣の肯定的回答が少ないことがわかる。標準コースの生徒を中心に教え合い活動を積極的に取り入れていきたい。  
また、生徒の様子や理解度を教員間で周知し合い、より生徒の実態にあった授業づくりを意識していく。

### ・基礎学力の保障

週末に基本的な計算や定理の確認する小テストを実施する。また、事前に類題を提示しておくことで、「できた」という気持ちを養い、主体的に学習する意欲を身につけていく。  
基礎の定着が不十分である生徒に対してはタブレットを活用した復習を呼びかけていく。

### ・学習習慣の確立

学年として取り組んでいる家庭学習ノートで数学の問題に取り組むよう働きかけていく。定期的に基本的な計算問題に関するプリントを配り、C層D層の生徒でも取り組めるよう配慮をしていく。

### ・AB層の育成

少人数習熟度別授業を実施し、A層B層の生徒に適した発展的な問題の提示、教え合いや自己調整学習などの授業のやり方を工夫し、思考力・判断力・表現力な力を身につけていく。